

性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会
(第25期・第7回) 議事要旨

1 日時：令和3年11月26日(金) 10:00～12:00

2 場所：オンライン

3 出席者：渡辺 美代子、名越 澄子、河野 銀子、高瀬 堅吉、野尻美保子、
伊藤 公雄、上田 修功、安田 仁奈、能瀬さやか(以上、名簿順)
(事務局) 大山 研次、森田 健嗣

4 議事要旨

(1) 前回議論の確認

第6回分科会の議事(資料2)について確認した。

(2) これまでの議論の確認

これまでの議論の内容を確認し、その表出方法について議論を行った。主なコメントは以下の通りである。

- 議論の内容を意思の表出へとつなげる際は、「科学的助言等対応委員会(仮称)」に相談し、進めることになる予定である。また、外部の査読等も必要になる可能性があり、意思の表出のプロセスについては、12/3の総会で決定する予定である。
- 小分科会でのこれまでの議論を「提言」としてまとめることは良いが、新しく設立される表出方法である「見解」としてまとめる可能性もある。もしくは「報告」となるかもしれない。

→議論の結果、表出方法を選ばず、議論の内容をまとめることについては委員の同意が得られた。

(3) 提言等内容について

渡辺委員長より資料1に基づき、提言等の内容について提案があり、意見交換を行った。

その結果、目次案の項目は下記の通りとなった。括弧内に各項目の執筆担当を示す。

【目次案(執筆担当)】

1. はじめに(渡辺先生)
2. これまでの歴史的背景(伊藤先生)
3. 本提言における性差の定義(伊藤先生、高瀬 ※高瀬が素案を書いて伊藤先生に提出)

- (1) 最近の性スペクトラム研究
- (2) LGBTQなどをめぐる動向
- (3) 「男女」という二項分類による弊害と問題点

4. 性差を考慮した研究推進の必要性

- (1) 世界の動向（渡辺先生）
- (2) AI研究の多様性（上田先生）
- (3) スポーツと性（能瀬先生、伊藤先生）
- (4) 医学・医療と性（含む暴力と性）（名越先生、能瀬先生、高瀬 ※高瀬は心理面を担当）
- (5) ケアと性（次回小松浩子先生話題提供の後決定）
- (6) 工学と性（渡辺先生）

5. 性別データ取得の必要性（野尻先生、河野先生）

- (1) 性別に関する国際的データ共有の現状
- (2) 日本のデータ取得と共有の状況
- (3) 男女別データの限界

6. 提言

- 担当者は原稿を1月末までに執筆し、安田先生、高瀬に提出する。
- 提出された原稿を2月中旬までに安田先生、高瀬が提言案としてまとめる。
- 提言本文は20頁以内とする規定があったが、20ページ程度となる。ただし、要旨、目次、参考文献、参考資料等は頁数にカウントされない。現在の目次案では項目が15あるので、執筆分量は各項目1～2頁となる。提言の1頁当たりの文字数は約1300字なので、1300～2600字で各項目を執筆する。図表は文字数にカウントされないが、本文中に挿入する場合は頁数としてカウントされる。

資料1に基づき、提言等内容について意見交換を行った。

委員からの意見を目次案の項目別に示す。

【目次案の項目別にまとめた委員からの意見】

1. はじめに

- 性スペクトラムの項目は「はじめに」のところで議論する必要があるのではないか。
- 本小分科会で議論してきた genderd innovation の gender の意味は、生物学的性差（セックス）と社会的・文化的性（ジェンダー）の双方にかかわるものであることをまず示し、そのうえで「はじめに」の箇所ですべて性スペクトラムについて触れるのはどうか。性スペクトラムはセックスについてであり、それとジェンダーとの関係を示してから、文章を展開するのが良いのではないか。
→「本提言における性差の定義」を項目として設けることとした。
- 最初に性スペクトラムを述べると、男女別データを提出すべきという記載と矛盾しな

いか。

- 性スペクトラムは多様性の視点を保持することの必要性を示すために必要であるが、一方で、性別、特に男女別データが必要な理由は、男性中心の社会構造が存在するからである。性スペクトラムの存在をはじめに記載することと、男女別に基づくデータの必要性を述べることは矛盾しないと考える。
- 二分法的な性の在り方に敏感になりつつ、多様性に拓くという論理展開が良い。
- 性の多様性が進まない原因が二分法であるという論点もあるが、二分法での現状を明らかにするうえで、多様性に拓くという論点も良いと思う。
- まずは二分法で見る。そのうえで、現状の二分法は男性視点で見ていることを述べ、女性視点での気づきを記載する。さらに、多様性へと展開していくのが良いのではないか。また、差別や排除を前面に押し出すのではなく、あくまでも女性視点からの気づきがあることを強調してはどうか。
- 多様性推進だけを強調すると、違うかたちで社会に伝わってしまう可能性がある。そのため、「はじめに」の箇所で、正確に定義してから論理を展開する必要がある。
- 「はじめに」の箇所の次に当分科会における「性差に基づく科学技術イノベーションとは何か」を明確に記載し、そのなかで「性差」を定義する。
- 性スペクトラムの項目は最初にもってくる。
- 性差に基づくと言いつつ男女ではないという点で、まとめ方に工夫が求められる。

2. これまでの歴史的背景

- 「歴史的背景」のなかで、日本でジェンダーが受け入れられない経緯も記載したい。
- 高度経済成長期の男女役割が成功経験として根付いているのが、日本でジェンダー問題が声高にならない原因ではないだろうか。

4. 性差を考慮した研究推進の必要性

(2) AI 研究の多様性

- 性差を含む不公平性の課題とその解決のための研究の紹介を中心にするのがよい。
- 理工系分野でジェンダーやセックスの問題は AI に集約されるのではないか。ただし、工学分野で性差の視点をどう入れていくかは社会の重要課題なので、工学分野の項目を独立して入れてはどうか。

(3) スポーツと性

- 国際オリンピック委員会からトランスジェンダーに関する 10 の枠組みが発表された。テストステロンだけでなく、競技種目を考慮すべきなどの内容でスポーツの項目を書くのはどうか。
- 近代スポーツが健常男性を中心に作られてきたので、障害等も含めた多様性を軸に、生涯スポーツも含めて記載してはどうか。

- 24 期の課題別委員会では、競技スポーツと生涯スポーツの繋がりを述べているので、今回の提言でも、その視点で記載してはどうか。

- スポーツの箇所に女性の骨粗しょう症なども含めてほしい。

(4) 医学・医療と性（含む暴力と性）

- 「暴力と性？」については、項目として設けたが、十分な内容として書けるかが現時点ではわからないため、「？」をつけた。
- 暴力と性については、他の項目に含めた方が良い。
- 暴力と性については、医学・医療の項目に含めて、今後、研究が必要であるという記載にしてはどうか。
- 医学・医療においては、ジェンダーは社会的「性」とされているので、生物学的「性」であるセックスとジェンダーの両方の差異を考慮した視点が必要としたい。

(5) ケアと性

- ケアの問題は第二部会員の小松先生が知見をお持ちであるので、一度お話しいただいて、ケアにおけるジェンダー問題を考えるのがよい。ケアも項目として入れる。
- 次回の分科会で小松先生をお呼びする。

(6) 工学と性

- 理工系分野でジェンダーやセックスの問題はないのか。
- 建築分野でジェンダー問題はないのか。男性が設計した建築物と女性が設計した建築物の違いなどを扱うことができないのか。
- 男性の生活体験の乏しさが建築分野のジェンダー問題を引き起こしているのではないのか。
- 防災、土木建築関係におけるジェンダー問題はやはり見直すべきである。
- 工学分野のジェンダー問題を入れると、ネガティブな事例中心になる。改善策が見いだせる項目を入れたほうがポジティブで受け入れられやすい提言になるのではないのか。
- 高専の女性問題も含め、たとえネガティブでも言い続けていく必要があるのではないのか。
- 工学分野では、ジェンダー問題が解消されないことに危機感がある。若手の例を交えれば書けなくはないかもしれない。

5. 性別データ取得の必要性

- 性別データ取得の必要性について、公的にとらなければいけないデータと、そうではないデータがあるため、現時点でとられているデータと、とられていないデータを整理したうえで、記載したほうがよい。
- データの必要性についても、男女別データの限界を含めるかどうかは検討したほうが良い。
- 男女別データの重要性を最初に指摘したうえで、その限界を述べてから展開するのが

良い。

【その他の意見】

- 「性差を考慮した研究推進の必要性」の小項目はすべてジェンダーという展開となるのか、セックスも含まれるのか。あまり言葉を分けすぎると、返ってわかりづらくなる。基本は二分法ではないことを述べる。AI の問題はジェンダーの問題というよりは公平性の問題なので、軸を適切に選んで文章を展開するのが良い。
- データがないものについても、現状の範囲から言えることを述べていくのが良い。
- 多様であるということは、男女という二分法も許容されるということだと思う。問題は公平性が担保されていないことにある。
- 多様性を尊重することで思考停止に陥ってはいけない。
- NHK のあさイチで 12/15 に職業のジェンダーギャップが紹介され、渡辺先生が出演する予定である。

以上